

令和2年(2020年)3月1日(日曜日)

# 整備、改修の「水の郷公園」沿い 境川の貴重植物 再移植

## GW三島 工事の影響軽減へ

三島市が3月の完成をめどに整備工事を進める水の郷公園(同市清住町)沿いの境川で29日、同市のNPO法人グラウンドワーク三島が事前に移植して保護していた植物の植え込みを行った。工事による自然環境への影響を軽減する「ミチゲーション」という手法で、絶滅危惧種のバイカモやミクリリなど貴重な在来植生18種類が元の場所に植えられた。



川沿いに植物を植える関係者＝三島市清住町

境川では公園の造成に合わせ、沼津土木事務所が河川改修工事を進めている。設計にも関わった同NPOは昨年11月、工事によって影響を受ける在来植生を近くの定植地に移し替え、水やりをしながら育てていた。工事が終了に近づいたため、約100株の川沿いや公園に再び移植した。

同公園は養魚場の跡地に整備され、園内では7カ所から地下水がわき出ている。近くに湧水のピオトープもあるほか、改修した境川

では以前のコンクリート護岸を壊し、より自然に近い水辺環境を整える。同NPOの渡辺

豊博専務理事は「植物があると魚が卵を産み付けたりできる。生態系がさらに循環するエリアになってほしい」と語る。(三島支局・金野真仁)